

小学校 A

ボール運動（ネット型の指導資料）

花澤 通孝（千葉） 有福 康人（船橋） 阿部 格（市川・浦安）
宍戸 康人（習志野） 湯浅 康雄（八千代） 齊藤 大樹（松戸）

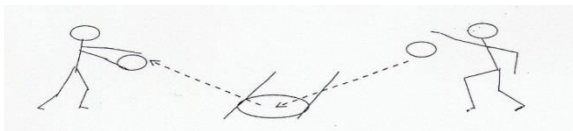
1 はじめに

本グループでは、「小学校学習指導要領解説 体育編」の授業改善例に記載されている「自己の運動や健康についての課題を見付け、課題解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決するなどの深い学びを促すこと」を受け、ボール運動（ネット型）の資料作成に取り組んだ。簡易化されたゲームの中で、運動の楽しさを味わうと同時に、役割を踏まえた作戦を考えたり選んだりすることで児童の思考力、表現力、判断力等を育む実践ができる例を紹介する。

2 実践例

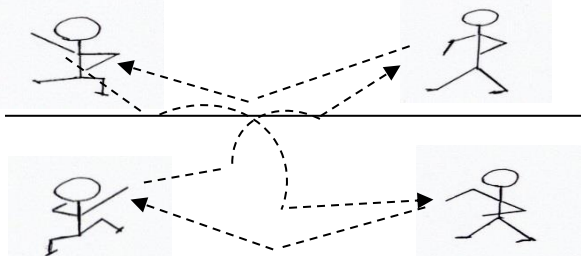
（1）ドリルゲーム

① 1対1プレルゲーム



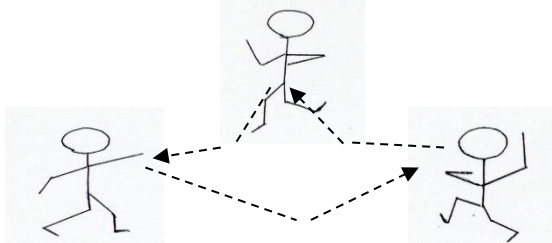
相手がプレルしたボールをキャッチし、自らトスをしてプレルして相手に返す。真ん中にフラフープや短距離走のコースラインを活用してバウンドさせる位置を指定する。

② キャッチトスアタック



レシーバーとアタッカーに分かれて行う。相手がアタックしたボールをレシーバーはキャッチして、隣の仲間にバウンドトスをする。アタッカーはトスされたボールをアタックして相手に返す。これをゲーム形式にしてもよい。

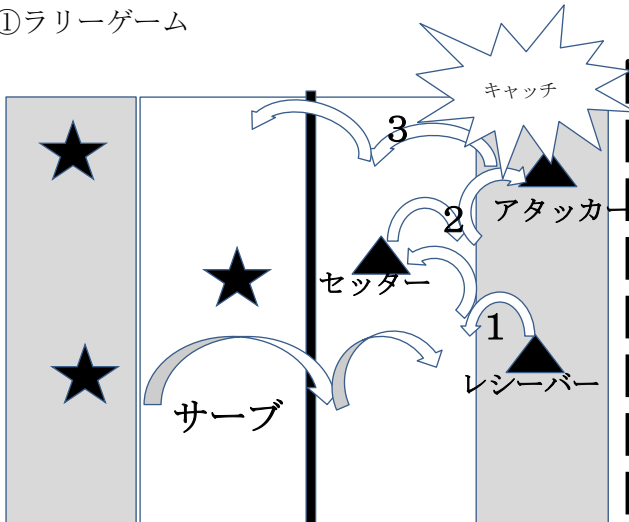
③ サークルパス



ボールの正面に入り、体の向きを変えて、違う方向にプレルして返球することがねらい。3人で三角形を作り、順番にプレルしてボールをつなぐ。一方通行で行う。何回続けてできるか挑戦する。

(2) タスクゲーム

①ラリーゲーム



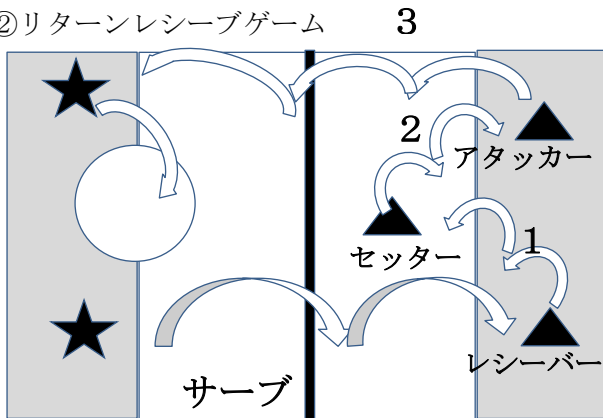
①ゲームのねらい

連携しての三段攻撃をドリル的に練習する。

②ゲームの進め方

- ・兄弟チームがサーバーとなり山なりのやさしいボールを投げ入れる（サーブ）。
- ・3人でボールをつないで、3回目にアタッカーはアタックゾーンで一旦キャッチして、相手チームが受けやすいように投げ入れる（シュート）。
- ・シュートされた側も同様にボールをつないで、相手コートにシュートする。
- ・時間内で最高何回ラリーが続いたかを競う。

②リターンレシーブゲーム



①ゲームのねらい

三段攻撃を経てレシーブしにくいところにシュートすることと、シュートをレシーブしてコート中央付近に返球すること。

②ゲームの進め方

- ・守備側のどちらかが山なりのやさしいボールを投げ入れ（サーブ）、攻撃側は3人でボールをつないで、相手コートにシュートし、返球できたら1点。
- ・守備側は2人のうちのどちらかが、相手のシュートをワンバウンドでプレルし、中央のサークル内にバウンドできたら守備側が1点。逆にできなかったら攻撃側に1点。

(3) メインゲーム

【ルール】

- レシーバー・セッター・アタッカー・得点記録係で1チームを構成し、3対3でゲームを行う。
- 相手セッターは山なりでボールを投げ入れる。レシーバーはプレル（はじく動作）でボールをワンバウンドさせセッターにつなげる。セッターはプレルでワンバウンドさせアタッカーにつなげる。アタッカーは自陣コートにワンバウンドさせボールを相手コートに打ち返す。基本的に3段攻撃とする。
- 得点が決まったらセッター⇒得点・記録係⇒レシーバー⇒アタッカーの順でローテーションする。
- 相手がボールを補球できない、アタックがコートの外、2バウンドプレーなどの場合、得点となる。
- ※セッターはキャッチさせてからボールをプレルする・レシーバーはワンバウンドしたボールをプレルするなど、児童の実態に応じて、運動の特性に触れられるようにルールを易しくしてもよい。

【場の設定】

- コートの広さは6m×13m程度とする（バドミントンコートを利用する）
- ネットの高さは50cm～60cm程度とする。
- ※コート縦長にすると・・・◎アタックアウトが減り、より思いっきりアタックできる。
◎アタックの緩急を考えるようになる。

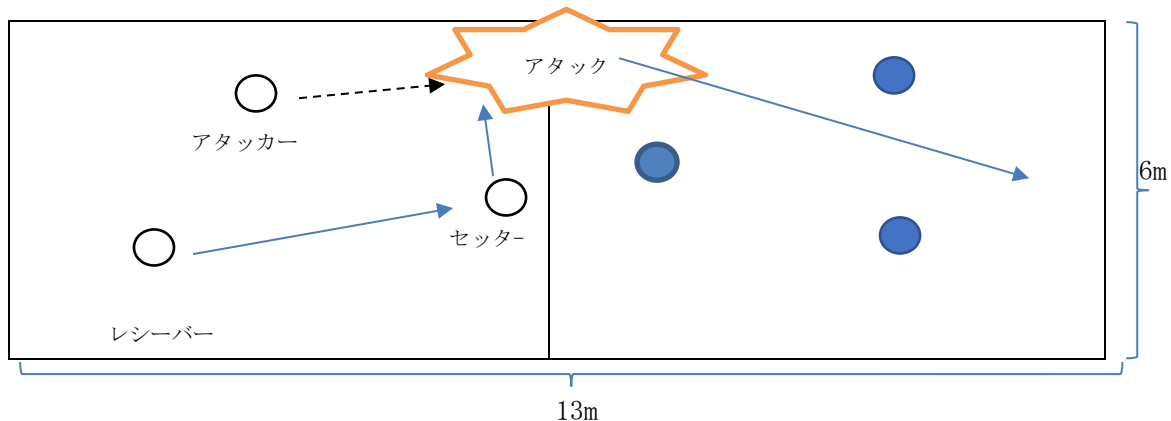
△レシーバーの返球が難しい。

※ネットを高くすると・・・◎誰でもアタックが打ちやすい。ラリーが続きやすい。

△低く強いアタックを意識しづらい。山なりのアタックが多くなる。

単元終盤になると得点が決まりづらくなる。

➡場の設定も、ルールと同様に、児童の実態や単元の進捗状況によって変化させていくとよい。



3 教材・教具

(1) ボール

プレルボールは手でボールを地面に打ちつける運動なのでボールを選ぶ際には「手に当てて痛くないもの」、「少ない力でもある程度バウンドするもの」を選ぶと良い。



キャンディボール



ソフトバレーボール



トリムボール



ライトドッジボール



バレーボール

← 柔らかい

→ 硬い

(2) ネット

市販されているものもあるが、カラーコーンにバーをとりつけたり、支柱にゴム紐を張ったりすることで代用することができる。高さは50cm～60cmが良い。



カラーコーンにバーをつけたもの

ビニール管の先にテニスボールをつけると安全



支柱にゴムを張り、すずらんテープを下につけたもの



塩化ビニール管にペンキなどの缶をつけ、コンクリートで固めたもの



ペットボトル4本をまとめたものに棒をたてたもの

4 単元構成（45分×9回）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9
0	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の進め方の確認 ・試しのメインゲーム 	ドリルゲーム・1人でキャッチ <ul style="list-style-type: none"> ・1対1プレルゲーム ・キャッチトスアタック ・サークルパス 				ドリルゲーム <ul style="list-style-type: none"> ・三角形パス ・キャッチアタックゲーム 			
	プレルボールを楽しむためには、どんなことを学習していけばよいだろう。	単元前半では、個人の技能を向上させるために、ドリルゲームの時間を多く設定する。単元が進むにつれ、タスクゲームの時間を増やし、思考・判断の場面を設ける。				単元後半では、メインゲームを意識したドリルゲームを設定する。また、実態に応じてチームの課題となる動きの練習をする。			
15	ドリルゲーム <ul style="list-style-type: none"> ・1対1 ・2人組キャッチトスアタック 					メインゲーム		メインゲーム	
				タスクゲーム② リターンレシーブゲーム		得点をとるためには、レシーバーの横や守備者がいないところにアタックすること。		得点をとるためには、レシーバーの横や守備者がいないところにアタックできるようにするための作戦を考えよう。	
30		タスクゲーム① ラリーゲーム		ラリーを続けるためには、どこにアタックすればよいだろう。					
45		ボールをうまくプレルするためには、どこに移動すればよいだろう。							